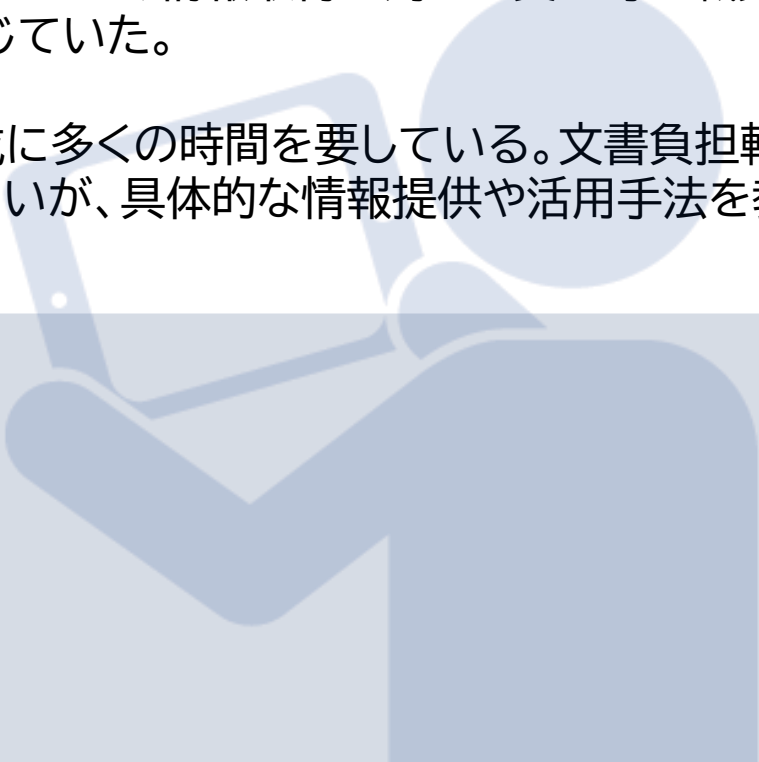


— 更なるICT機器の利活用 —

■ 事業所概要

- 地域／札幌市
- 介護サービスの種類／特定施設入居者生活介護 有料老人ホーム
- 事業開始年月／1990年8月
- 従業員数／58名（うち正社員24名）（R8.3現在）

■ 支援に至る背景と課題

- 介護記録ソフト(ケアカルテ)の活用が進んでいるものの、申し送りの精度に課題を感じていた。直接介護業務の遂行に必須である「特変記録」への認識について、職員によって温度差がある状態だった。
 - 職員間の情報共有ツールとして、「LINEWORKS」を活用中。業務軸での伝達事項を中心に使用しているが、情報取得に対して受け身の職員が多く、活用に課題があると感じていた。
 - 議事録作成や各種報告書作成に多くの時間を要している。文書負担軽減の観点から生成AIを活用したいが、具体的な情報提供や活用手法を教えて欲しい。
- 

■ 支援内容

- 特変記録の基準について、認識を一致すべく職員間で話し合う機会を持つよう助言。個々のご利用者様のアセスメント状態と比較しながら、変化した内容を伝える観点を重視して整理することをお伝えしました。また、他県介護事業所様の事例として、色分け機能により「ご利用者様の言動内容」「決定事項」「保留事項」など、ステータス管理ができる運用をお伝えしました。
- 気軽に入力できるSNSツールだからこそ、運用が属人的になり易い点を解説しました。ご利用者軸での情報は介護記録ソフト、業務軸での情報共有はLINEWORKSと運用を分けるよう指導。また情報過多により、緊急度が高い記録が埋もれてしまわないよう、グループ設定を工夫するなどの事例をお伝えしました。
- Googleのサービスである「NotebookLM」をご紹介。実際に当職の相談支援内容を録音し、生成AIによる要約まとめを併せてご紹介しました。文字による要約だけでなく、音声や描画による要約サービスがあることをお伝えしました。

■ 支援の成果

- 従前より、医療依存度の高いご利用者様を受け入れることができる介護施設として、質の高いサービスを提供されてきました。申し送り基準を見直すことで、個々の職員のスキルや経験に依存した判断ではなく、「決めたルールを維持管理する」手法を実践することで職種間の情報伝達精度が高まりました。
- Googleの生成AIサービスである「NotebookLM」の活用が効果的にすすみ、議事録作成などに使用しています。大幅な業務改善効果と文書負担軽減を実感し、職種間での活用促進が進んでいます。

■ 事業所の感想

- 他事業所と比較して、当事業所では介護記録の電子化(ケアカルテ)の導入をはじめ、ICT化に対して、これまで積極的に取り組んできました。しかし、その一方で、介護職と看護職の間における情報共有の不足や、職員個々のスキルのばらつきといった課題が未だ散見する状況にあり、次の段階のテーマと考えています。
- 改善への取り組みとして、いち早く利用を開始した「NotebookLM」は、主に会議録の作成を中心として活用している他、入居者との対話記録の整理等にも活用の幅を広げています。具体的には、録音した音声データをPCへ取り込み、その後AIへ作業指示を行うまでの一連の流れについて、特定の職員に依存しない(属人化を防ぐ)目的で、誰でも対応できるような簡易的なマニュアルを策定しました。
- 現在、令和7年度の介護ロボット導入支援事業費補助金を活用し、見守りセンサーの導入を進めています。この取り組みにより、特に夜勤帯を中心として居室巡回の回数を低減する仕組みを構築し、今後は効果や実用性について継続的に成果検証を進めていきたいと思えます。

